

OK-432による 耳介血腫の治療経験

上越総合病院耳鼻咽喉科
五十嵐良和

頭頸部領域のOK-432投与方法

- リンパ管腫
- 顎下型がま腫
- 正中頸部嚢胞

- 耳介血腫
- 口腔底型がま腫

希釈

高濃度

希釈(標準)法と高濃度法

(1) OK-432希釈液置換法(標準法)

嚢胞内容液を吸引し、OK-432を内容量と同量に希釈(0.1KE/ml濃度)して注入。

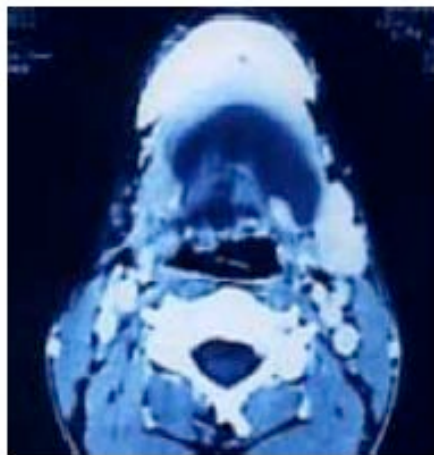
(2) 高濃度OK-432注入法

嚢胞内容の吸引を行わず、高濃度(0.2mlの生食で溶解)に調製したOK-432を皮内針で注入するだけ。

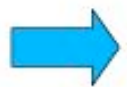
自験例 1 顎下型がま腫



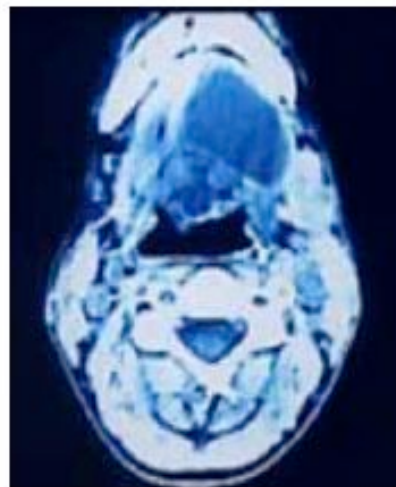
希釈法にて複数回投与
頸部嚢胞ほぼ消失
舌根部経過観察中



初回



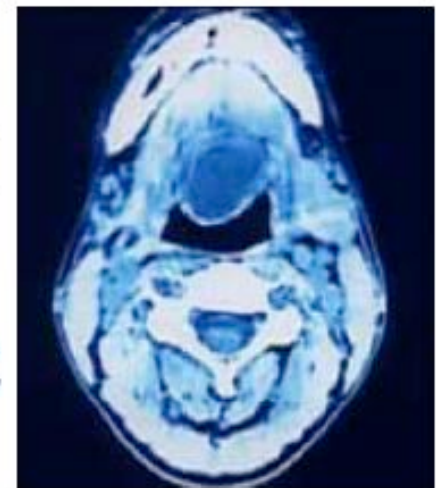
1 KE



2回目

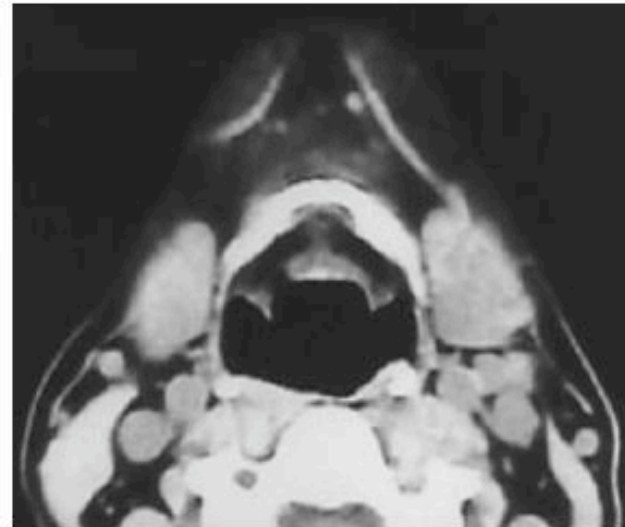
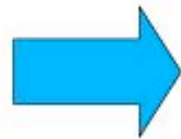


1.5 KE



自験例 2 正中頸部嚢胞

希釈法にて1KE単回投与



1ヶ月後、ほぼ消失。
以後再発なし。

今回、耳介血腫症例に投与

症例 21歳 男性

既往歴 アトピー性皮膚炎

現病歴 3日前より右耳介腫脹を生じ受診

治療

耳介血腫介開窓術施行

(tie over によるcompression suture)



不成功に終わったため
OK-432投与を施行

高濃度法にてOK-432投与



0.5KE/0.2ml



インフォームドコンセントは、
深瀬Dr.のOK-432治療に関するHPを使用

投与後2日後



注入した部位が発赤腫脹

初回投与2週後サイズ変化なし 2回目投与（濃度アップ）



黄色透明な液を排出し1KE/0.5mlを注入し
刺入部をデュオアクティブにてカバー

2回目投与1週後 3回目投与(2回目と同濃度)



初回投与时以上に腫れたのちひいてきたが
いまひとつ

血性内容液を2ml吸引し1KE/0.5ml注入

3回目投与1週後 4回目投与（濃度さらにアップ）



内容液を1.5ml吸引 1.5KE/1ml投与
投与後3日目より急速に縮小
4回目投与2週後に治癒

経過のまとめ



初診



手術



術後



0.5KE



1KE



1KE



1.5KE

今回の経験から得たこと

- 耳介血腫においてもOK-432が有効である
- 効果は0.5KE、1KEで△ 1.5KEで○
- 効果と副作用をみながら、複数回投与をおこなう可能性を事前説明(インフォームドコンセント)することが重要
- OK-432を信じて、じっくり待つ余裕が大切
(信じるものは救われる??)